

平成24年7月10日発行
第170号

康寿診報

編集 / 発行 医療法人社団 康寿会 加藤内科医院

〒421-0301 静岡県榛原郡吉田町住吉 303-1

Tel: (0548)32-0701 緊急用:090-1758-1712 Fax: (0548)32-1280

「身近な“モンスター性を持つ人” 見て見ぬ振り？」

- 勇気・自信・信念を持ち医療人として“ 嬌やか ”に処すか <その6> -

野田佳彦首相が中学生の自殺事件で「一番大切なのは“いじめの周りにいる子”です「見て見ぬ振りをしない」と訴えた。しかし 大津市の中学では教員が会議を開き「“いじめ”を“喧嘩”と結論」付けていた。「組織ぐるみの無責任」は「遠慮」の名の下の“保身”、「当たり前障り無く済ませる“風潮”」更に「明白な間違いでも 上司・トップに物申さぬ・言わさぬ 封建的な組織の仕来たり」が成す。そこに“見て見ぬ振り” 故に成り立つ “馴れ合い” “誤魔化し・隠蔽” これらが蔓延る。社会・組織 政治政党 更に国家までもが「物申す者を“反逆者”と考へ・捉え “物言えぬ・云わさぬ” 状況を醸し “村八分”に仕立て これを「捉」組織の“善”とし “当然・当たり前”と疑わない。「単一民族の感性からくる社会構造” ある意味「皆が皆 “いじめの周りにいる子” “モンスター性を持つ人”」であり 現日本の問題」である。問題が表面化・立ち行か無く成り “事の真相を問う事態”と成り、はじめて遅れてマスコミが介入・便乗する。

榛原医師会 我が組織、裁定委員会の「棄却」の“意図” “書”で申し、責任者の提示も無き事から 責任者と見做す副会長に 事前に“書”で 更に“本会(6/25)”で問うも、下記 の答弁、

榛原医師会 高木平会長宛て書面(No.55 2)(平成24年6月11日)より抜粋

「断じて「全て“棄却”」というような これ以上「己の“非”を 組織ぐるみの無言・隠蔽」として 処する姿勢」は 避けて下さい、以上 医師会の“公”の席の前に申し上げます。

平成24年6月11日発行 康寿診報 第169号 P1に掲載

会長高木平氏は無論 執行部はじめ「「全て“棄却”」で“事が足る”と 未だに“足元を顧[=省]みる事”は無いのか？」「下手なアリバイを取り繕い 出鱈目を繰り返す事務方、これは何方の“責”か？」「“共同責任・共同無責任”体制、この状態を・この世に及び 続けるのか？」

組織の“解体・再構築の課程”で、今一度 下記 「己の覚悟 “念”を据えろ」「現実の世界 “現世”で 今けじめを付け 正確に・間違い無く 物申し 決していく事」これを成せ」と理解し、己に利き効かせるが... “周囲を取り巻く モンスタリック的集団” 環境に押し潰され、己の意欲が削がれ 休養が必要な 弱い自分が 顔を出す。「己の業[=行]”を 鑑み再構成”の為 総会の後4日半程 リフレッシュ休暇、更に 己の“器”の無さ・力量不足 これを自覚し、毎週末 立ち留まり「急がず・騒ぎ立てず、事の順序を弁え、後退無く」成す事を“確”と 積み上げる。

「相手の個人的な“感”として 怒り・怒りを己の腹に収め、私自身が 己の“器”を 育て・慈しみ 創る “糧” これに転換していけば好い事」と理解している。しかし 社会に対して 公の立場の人間が、己の都合 時々感情により 軸がぶれ、直接 社会・公の不利益に 振る舞う事、この是正は 絶対的に 必要・必至な事、特に我々医療現場に於いては 時間と駆け引き・命との引き換えに成る事も“想定内”である。怯む時間は無い、断固 肝に命じ 処していく。平成24年5月1日発行 康寿診報 第168号 P1より抜粋

「己・場の都合” “立場を護る” ことに根差す見解から「組織の“意”に沿う・沿わないなど 狭い範疇」の思考[=志向]は止め、「広義の「組織の義を成す議論」をすべき」である。加藤寿夫

榛原医師会総会にて「組織の義を質す」とは

～「組織の義」心得る事を学んで《その》～

先々週 平成24年6月25日(月)開催 榛原医師会第106回定期総会に於いて 榛原医師会会長 高木平氏の冒頭「挨拶に違和感を覚え『己に問い掛けて欲しい』と『“未来”を語る時は去り“破綻の解除”を願い、会長の姿勢に置き換え提示」した。当日挨拶原稿はその場で配られ 更に広報に掲載され 7月10日(火)昼 配付された。

また 議事を執り行った 副議長 座光寺哲氏が 私が朗読を願った内容[下記]を読み上げた。高木平氏が自らを正し 間違い無い方向で組織が歩む“事”を願う。

榛原医師会医師会総会 2011[平成23]年6月25日開催に於いて 議長に朗読をお願いした内容 2012.6.7.

“榛原医師会執行部へのお願い” “話し合いの場”を持つ事 “交渉事”を放棄しない事 医師会が 我々医師の“個の集団としての意義”を持つ事 問題が生じた際“裁定が成される組織”である事

榛原医師会医師会総会 2012[平成24]年6月25日開催に於いて 朗読を追加お願いした内容 2012.6.23.

“榛原医師会執行部へのお願い” “嘘・偽りの言動は慎む事” また この様な事の成された際は 訂正する事 “議事録を残す事”

以上 私 加藤寿夫が 執行部に求める内容申し上げます。

“康寿診報の医師会員への配付”について

総会后7月2日(月) 事務長 増田薫氏から電話で私が問うて知った事であるが 毎回 毎度「会長・副会長はじめ 執行部に“康寿診報の医師会員への配付”を願い申し上げ 今回は「“康寿診報の医師会員への配付”の上で総会をお願いした筈」であるが “事が成されない状況” “何も告げられず配付されていない状況” 愕然とした。この件「執行部の意向として 事務局としてこれに従った」「裁量は私に全面的に任されている」と 私に豪語する増田薫氏、高木平氏は音沙汰無し、“事務局・事務長の裁量”か？

“事を知らされず”に「医師会員各々に事が掌握されていると信じ」、二区会[=吉田・榛原の地区会]総会等に於いて発言した事、さぞかし滑稽であったと回顧した。

毎月の康寿診報は、毎回 吉田町町長 田村典彦氏・会長 高木平氏はじめ 私の言動に關与する方々には 事前に提示の上で 発行している。そして「ここ半年程の 榛原医師会事務局に配布を願った『医師会員宛ての封書は 医師会“事務局で拉致された状況”であろうか?」何も知らされない、「配付しないのであれば事由を明らかにして返却する事」は 事務局として当然の仕事と考える。

“裁定委員会の裁定結果 棄却の内容”について

事前に何度かに亘り 副会長 石井英正氏にアクセスし、下記 を提示した上で 6月25日(月) 榛原医師会総会に臨み 問うたのであるが 返答は皆無であった。

榛原医師会総会 2011[平成23]年6月27日前 事前に 副会長 石井英正氏宛て書面より抜粋内容 2012.6.23.

“裁定委員会に關与した副会長”として 伺います。責任ある 答弁願います。執行部として 回答を用意しておいて下さい。

私 加藤寿夫から伝える内容は [平成24年4月19日付“通知書”]にて 伝達済。再度

6月25日 総会当日 “棄却した内容”を問うが 具体的返答無く 討議打ち切りの姿勢。 「これ以上の “共同責任・共同無責任体制” この黙視は在り得ない状況」である事を伝え、 裁定委員会として 組織として “責”のある返答を 現副会長石井英正氏に求める。

“ヨウ化カリウム備蓄について”の 第一義は何か

また “ヨウ素剤予防服用に関する問診票について” 郡市医師会長協議会に於いて 榛原医師会会長高木平氏が 問うた内容が [静岡県医師会報 第1491号 平成24年7月 P18]に掲載された。 牧之原市市長西原茂樹氏にこれを提示し下記 のように示した。

牧之原市 西原茂樹市長に提示した書面より抜粋 2012.7.6.

会長 高木平氏の言動 「マスとしての市民 住民の命を護る」という “意”からすると 怒りすら覚えるのですが…。 何はともあれ「放射性ヨウ度がばら撒かれた際は 若者の健康を守る為に ヨウ化カリを内服し早急に圏外に避難する事」が 成される様に準備し、 地方自治トップとして指揮して下さい。

現状況で 榛原医師会に何を求めるか？ 会長 高木平氏が 「己の“非”から招じた 鎧について 無言・隠蔽を貫き “事”いかなくなると 榛原医師会という組織を盾に使い 棄却[≠却下]とし 処す繰り返し、 “共同責任・共同無責任体制” とし “組織の責任を放棄する” 所業。 これ以上は許し難く 「緊急停止状態」と判断 現世で処していく。

「違うだろう…」と申す会員がいるなら 「見て見ぬ振りをする姿勢を問うべき」である。 “機能しない・動かない” “話し合いも・交渉事も皆無”の 我が医師会を悲しく想う。

最近 総会の前後 私の“師”とする方々 ある意味 私の目標としている先生方と話す機会を得た。 総会の5日前6月20日(金)には 一人医療法人会の懇親会の席で 県医師会会長鈴木勝彦氏と 県医師会理事兼榛原医師会副会長赤堀彰夫先生も同席し 毎月の康寿診報が届いている事 確認した後で行き成り「いや 云いたい事 言った方がいい」と言われた事、 榛南地区の状況を把握していただいて「分かりました 僕は うん 必要な事は遣る 人間がどうのこうの 関係がどうのこうのじゃなくて 必要な事は遣らなくてはいけない それはそういう気持ちですから」「やあ 加藤君 仲好くやれ」と言われた事、 大変 参考になりました。 また 総会翌日6月26日(火)は 循環器の勉強会の情報交換会 私が“兄貴”と慕う 県立総合病院副院長土井修先生も同席の場で 県医師会理事 田中孝氏から 私加藤寿夫の“評”をいただいた。 小沢一郎氏の政治力・数の理論に及び 熱く話をされた後 「正しいか・間違いかの判断は 誰が成すか」「世の判断は 相手に・組織に 受け入れられなければ 成り立たない」「要するに “加藤先生に榛原医師会の連中が一人も附いてこない” これが現実だ」と 理路整然と大変辛口なアドバイス・助言 更に“大人の戦略”まで教授いただき 心から感謝している。

私が 野田佳彦氏 現首相から学ぶ“姿”。 己の今の“器”で最大限の 覚悟と配慮を持ち 強者小沢一郎氏にも 正面から “逃げ無い” “誤魔化し無し” “裏での駆け引き・取り引き無し”の姿勢 「見習い・貫きたい “男の姿勢”」をみる。 私加藤寿夫の「第一義は 「正しいか・間違いかの判断」 己自身で “確”と成す事」そして「自己の行動・言動は 己の “責”の下 “事”を成す事」「たとえ “Negative な布石”でも 己の生した “責”と覚悟し 行動する事」。 今 自己の“器”を最大限に活かし 己の道を “確”と歩む。 加藤寿夫

《看護師(若干名)募集のお知らせ》

時間 / 8:00 ~ 18:00(交代制・昼休み時間あり)・パート可

休日 / 日曜日・祭日・木,土曜日午後休診

待遇 / 各種保険完備・交通費支給・初年度年休 10 日間

給与 / 当院規定による(フル勤務 30 万/月・時給 1600 円以上)

資格 / 経験者・各種資格所有者 優遇

これから資格取得を目指す方 サポート

応募 / 電話にて連絡(0548-32-0701)の後 履歴書(写真添付)を連絡先を明記して 本院へ郵送

《診療案内》

毎日 朝 8:00 より 5 分間 阿波踊り
体操をしております。是非御一緒

診療時間	月	火	水	木	金	土
8 時 ~ 12 時						
15 時 ~ 18 時				/		/

「朝の挨拶」の為 一般診療開始は 8:30 からです。

午後の受付は 初診は 17:30 まで 再診は 17:45 まで です。

休診日:日曜・祝日 木・土曜の午後 月末最終日の午後

《臨時休診のお知らせ》

お薬を切らさないように 気を付け下さい。

8 / 15(水)・27(月)、9 / 10(月)、
10 / 12(金)・13(土)・15(月)